

鎌倉五山を訪ねて(第四位) 浄智寺

ここを進むと浄智寺に至る





ここは総門



浄智寺

Jōchiji Temple

This temple is one of the five most prominent temples, ranking fourth on the list of Kamakura Gozan (Kamakura's Five Great Zen Temples). It was recorded that this temple was erected in 1280s by Morotoki the grandson of Hōjō Tokiyori, and established by a Chinese Priest. This temple possesses one of the Kamakura's Ten Celebrated Wells. The 'Kanro-no-ido' or 'Nectar Well' in the precincts.

鎌倉五山の第四位で、山号を金宝山といい北条時頼の孫師時が父宗政の没後弘安4年(1281)以後に建てたといわれています。開山は宋僧の兀庵普寧とされ、境内には鎌倉十井の一つである甘露の井があります。

甘露の井の標柱



柵の辺りが甘露の井(鎌倉十井の一つ)





文学案内板

浄智寺

清澄で野趣に富むこの禅刹浄智寺は、多くの文人が来訪し、数多くの文学作品が創り出されているが、この案内では文学碑とゆかりの文人を紹介する

○文学碑

安藤寛歌碑「結界に降る雨あしは光りつつ深き杉生のみどり
にしづ舞」 (昭和五三年建立)

○ゆかりの文人

磯田光一(文芸評論家・墓所)

澁澤龍彦(仏文学者・評論家・小説家・墓所)

鳥木健作(小説家・墓所)

尚、詳細は鎌倉文学館(鎌倉市長谷丁五十三番電話二二一三九二)に
ご照会ください。

平成三年三月

鎌倉市教育委員会
鎌倉文学館

国指定史跡

浄じよう

智ち

寺じ

境けい

内だい

昭和四十一年二月二十八日 指定

鎌倉五山第四位、臨濟宗円覚寺派、金寶山浄智寺は、弘安四年（一二八一年）北条時頼の三男宗政が二十九歳で没後、間もなく、宗政夫人と幼少の師時を開基にして、宗政の菩提を弔うため創建されました。

中国、宋の名僧、兀庵普寧と大休正念、及び日本僧南洲宏海の三人が開山になっています。これは、当初開山に招かれた宏海が、任重しと身をひき、師の大休正念を迎えて入仏供養をおこない、すでに世を去っていた師僧の兀庵普寧を開山としたためです。

創建当時の伽藍は、外門、山門、行堂、仏殿、方丈、庫裏等を備え、塔頭は十一院に及んだということです。

永い間には、たたずまいも変化し、現在は、看門寮、山門、鐘楼門、仏殿、書院、方丈、隠寮、庫裏等の堂宇が柏楨や杉木立ちの中に点在しています。

境内は、周囲を緑の山々にかこまれ、昔ながらの、広大な寺院域を残しており、地理的環境と鎌倉五山の伽藍遺構を後世に伝えるため、国の史跡として保護されています。

平成九年三月三十一日

神奈川県教育委員会



最近建てられたという風情のないデザインの鐘楼門(山門)/写真も傾いてしまった



これは仏殿(曇華殿/どんげでん)





前方は「やぐら」/古代は住居として、その後は墓所として、近代では倉庫として使われたのだという





こんなトンネルを通過して進む



こんなものもある



これは庫裏裏手の洞穴の中に立っている浄智寺の布袋尊



参考ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/kamakurakikou/aiyouchiji.html>

<http://www8.plala.or.jp/bosatsu/page138iyotiji.htm>

http://www.treep.jp/kamakura/cate_temples/iyouchiji.html

